

米国 柑橘類の生産量は長期的に減少の見通し

[EUROFRUIT 2024年3月7日](#)

グレープフルーツとオレンジは、他の柑橘類と非柑橘系の果実に市場シェアを奪われると予測される

米国農務省(USDA)チーフエコノミスト室の報告書によると、米国の柑橘類の生産量は、2033年に安定するまで長期的な減少を続けると予測される。この傾向は、レモンとタンジェリンの生産量が増加する一方で、オレンジとグレープフルーツの生産量が減少することに起因している。

「[米国農務省2033年農業予測](#)」報告書では、米国の柑橘類の総生産量は、2022年の約112億ポンド(580万トン)から2024年には約99億ポンド(449万トン)に減少すると予測されている。その後の生産量はかなり安定し、2033年には111億ポンド(503万トン)と予測されている。

州別に見ると、カリフォルニア州は引き続き生鮮オレンジ、グレープフルーツ、タンジェリン、レモンの最大の生産州であると予想されているが、同州のグレープフルーツとオレンジの収穫量はわずかに減少すると見込まれている。グレープフルーツとオレンジは、他の柑橘類及び非柑橘系の果実に市場シェアを奪われると予測されている。カリフォルニア州のレモンとタンジェリン(皮のむき易いマンダリンを含む)の生産量は、予測期間を通じて増加すると見込まれている。

フロリダ州のオレンジ、グレープフルーツ、タンジェリンの生産量は、柑橘類の果樹園が他の用途に転換されるのに伴い、数十年にわたる長期の減少傾向が続くと予想されている。

米国における柑橘類の総生産額は、価格の上昇により2022/33年度の間には25%増加し、2022年の農業生産額29億8千万米ドルに対し、2033年には37億米ドルに増加すると予測されている。

報告書によると、農業部門全体の農業純収入は、2023年の1,511億米ドルから2024年には1,438億米ドルへと73億米ドル(4.8%)減少すると予想されている。2033年の農業純収入は1,236億米ドルと予測されている。2024年の農業純収入が2023年と比較して減少すると予測される主な要因は、商品価格の下落による現金収入の減少である。

執筆者: マウラ・マクスウェル

昨年末の世界のオレンジ果汁在庫量は回復するも供給量は不十分

[ロイター通信 2024年3月7日](#)

サンパウロ 7日 ロイター - ブラジルのオレンジ業者の団体CitrusBRは7日、昨年12月31日現在の世界のオレンジ果汁の在庫量(冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)相当量)は46万3,940トンと推定され、2022年末より6.7%増加したと発表した。在庫量の前年比での増加は3年連続の減少に終止符を打ったが、同協会のデータがある過去13年間で2番目に低い在庫水準であり、市場の逼迫を緩和するには十分でなかった。

ルイドレフュス社、クトラー社、シトロスコ社などが加盟するCitrusBRによると、この在庫量の少なさは、オレンジ果汁の世界最大の生産・輸出国であるブラジルで、4シーズン連続でオレンジが不作であったことを反映している。CitrusBRのイビアパバ・ネットー会長は「過去4シーズン、園地では極端な干ばつから猛暑まで、生産に悪影響を及ぼす一連の問題があった」と述べている。

カンキツグリーンング病として知られる柑橘類の病気は、昨年オレンジ果汁の価格を過去最高近くに押し上げたが、同会長は在庫量減少の主な理由は悪天候であると述べた。

同会長はさらに、ブラジルの2023/24年度シーズンが終了したことで、市場関係者は国内の機関である柑橘類栽培防衛基金(Fundecitrus)が5月10日に発表する2024/25年度のオレンジ収穫予測に注目しており、それが新しいシーズンの基調となると付け加えた。

報告者: ロベルト・サモラ、執筆者: ガブリエル・アラウジョ、編集: アンドリュー・コーソーン、バーバラ・ルイス